

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年6月27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872100839		
法人名	医療法人社団 ハート		
事業所名	きんもくせい	ユニット名	1F
所在地	〒312-0062 茨城県ひたちなか市高場1673-34		
自己評価作成日	平成22年11月15日	評価結果 市町村受理日	平成23年6月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年1月14日	評価確定日	平成23年6月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>午前中は、ホーム周辺の散歩や軽い体操、午後は、買い物や趣味活動、ゴム体操、また週一回、外部の講師による歌の会、体操の会を通して上下肢筋力の低下防止・気分転換に努めている。週末には普段行けない場所にドライブに行くなどして楽しんでいる。さらに外部から講師を招き、月1回のお茶会、月2回の音楽療法を実施して、芸術に触れる機会を作っている。</p> <p>今年度も、地域の小中高生・親子などのボランティア受け入れに積極的に取り組んだ。行事に参加したり、毎日の買い物や散歩の中で、近所の人と挨拶するなど、地域との関わりにも努めている。一緒に朝の掃除を行い、食事の場面では準備、盛り付け、片付けなど一人一人のできる事を見極めながら一方的なケアにならないよう心掛けている。入居者同士の会や、「暮らしのパートナー」として共に生活することにより支え合う関係作りを力を入れている。</p> <p>五感を感じる空間作り、安心して生活できる環境作りを考え、スタッフ一同、住み慣れた地域と共にその人らしさを大切に「ゆっくり、ゆったり心地よく一人一人に寄り添う介護」を実践している。</p> <p>また医療面ではクリニック併設の為、急な体調の変化に対応でき、入居者は安心して生活している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>防災マニュアルを作成して毎月夜間の想定を含めた避難訓練を実施しており、職員は経過時間を計り感想や反省点を記録して検討するなど、災害対策に熱心に取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議やチラシから情報を得て、地域の展示会や青空市、クリスマスのイルミネーションを見に出かけるなど、利用者が社会参加ができる機会を多くなるよう工夫をしている。</p> <p>利用者は食事時に調理の段階から参加したり、男性の利用者がお茶を美味しくいれることに心をこめているなど、一人ひとりができることを発揮しながら楽しく過ごしている。</p> <p>毎月利用者同士の話し合いの場を設け意見交換をするほか、家族等には季刊で事業所便りを発行し利用者の日常生活を伝えて意見や要望が出易くなるよう配慮している。</p> <p>利用者が地域の行事に参加したり夏祭りの御輿が事業所に立ち寄るほか、中学生の職場体験や親子のボランティア体験の受け入れに積極的に取り組むなど、地域との係わりを大切にしている。</p> <p>経営母体がクリニックであるため事業所と24時間連携が図られ、利用者は安心して暮らしている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的に介護の現場やケース検討会などで理念についての話し合いをしている。また、理念を書いた携帯用のカードを全員が持って、理念の実践に向けて取り組んでいる。	「住み慣れた地域と共にその人らしさを大切に、ゆっくりゆったり、心地よく一人一人に寄り添う介護」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を全職員で作成し、玄関や各フロアに掲示している。管理者と職員は理念を書いたカードを携帯し、介護の現場やケース検討会など日常的に話し合い共有を図るとともに、実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りには、ホームにお御輿が訪問してくれ交流を図ることができた。また四季の行事ごとに花を届けて生けてくれる近所のお花の先生宅に手作りの雑巾を届けた。ホーム周辺の散歩を通して挨拶、花を頂いたり地域の方と交流や理解が図れるよう努めている。	利用者は散歩や買い物時に近隣住民と挨拶を交わし顔馴染みになっている。中学生の職場体験や親子での夏休みボランティア体験等を受け入れている。地域の夏祭りの御輿が事業所に立ち寄ってくれるほか、近隣のお花の先生が行事毎に花を生けてくれたり、事業所の行事にギター演奏などのボランティアが訪れるなどで交流している。利用者は職員と一緒に近隣の清掃活動を行うなど、地域の一員として役割を担い交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、地域における非常対策について、H23年1月「地域の避難訓練」に参加予定である。訓練などを通して地域の人々に認知症の理解や支援の方法などお伝えしていくことを検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、入居者の状態やホームの行事、取り組みなどを報告している。今年度は、地元消防団の方にも出席して頂き緊急時の対応、地域との関わりなど、密に話し合いができ、理解と支援を得てサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は利用者や家族等、地域包括支援センター職員、地域住民が出席し2ヶ月に1回開催している。会議では事業所の行事やサービス状況の報告を行い、委員の要望や助言を得ながら外部評価結果で明らかになった課題等についても話し合うとともに、地元消防団員が出席して緊急時の対応や地域との係わりについて話し合うなど双方向的な会議となっている。議事録は欠席者や家族等に配布するとともに、出た意見等は職員会議で話し合いサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月利用状況の報告など、市の介護保険担当者や地域包括支援センターと連携を図っている。また、市の担当職員には、運営推進会議内容や防災の地域との関わり方など、アドバイスをし、頂き協力関係を築いている。	市担当者が毎回運営推進会議に出席するほか、市が実施しているボランティア活動受け入れ事業を利用する場合は、担当者がボランティアと共に事業所を訪れている。管理者は西部地区グループホーム懇親会や情報交換会などに出席するとともに、市担当者の来訪時や電話等で運営推進会議の内容や防災における地域との係わり方などについて相談しアドバイスを得たり、他施設の行事や福祉関連の情報を得るなど、協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、定期的に見直す機会を会議等で設け、職員全員が理解できるよう努め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。会議や研修会で身体拘束とは何かを正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組み随時職員同士の話し合いの場を持ち意識の共有を図っている。	管理者は身体拘束をしないケアに関するマニュアルを作成するとともに、定期的な会議や内部研修会などで話し合い、全職員が身体拘束の内容とその弊害を正しく理解するよう取り組んでいる。一人を外へ出る利用者がいるが、職員は安全を確保しつつ見守ることで、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の会議の中で研修の一環として様々なテーマを取り上げ勉強する機会を持っているが、その中で虐待防止の事も取り入れて学び周知を徹底し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員全員が理解できるよう会議や研修会などで、学ぶ機会をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際には、入居者や家族等の不安や疑問を解消できるように時間をかけて十分な説明を行い、理解を得られるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者同士の話し合いの「望みの会」やアンケート、家族にはアンケート、意見箱の設置などで意見や要望を聞けるようにしている。また、運営推進会議では両者が意見や要望を外部者へ表せる機会とし、運営に反映させている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し玄関に掲示している。 利用者や家族等の意見や要望等は、運営推進会議や介護計画の見直し時のほかアンケートを実施し、表せる機会を設けるとともに出了意見や要望は記録し、すぐに対処できない要件については職員会議で話し合い、それらを運営に反映させている。 毎月利用者同士の話し合いの場を設けて意見や要望を聴くほか、家族等には季刊で事業所便りを発行し、利用者の日常生活を伝えることで家族等が意見や要望を出し易くなるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見、提案などを聞ける環境を作り、可能な限り運営に反映できるように努めている。	管理者は定例の職員会議のほか、毎月実施する勉強会で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。 施設長や管理者は職員とコミュニケーションを図り、意見や提案を気軽に出せるような関係づくりに努めるとともに、有給休暇の取り方や事業所の運営方針、取り組みなどについて職員から出了意見や提案を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の研修への補助、資格取得の援助等、全職員個々の努力や実績、勤務状況を把握して、給与水準、労働時間の把握など、各自が向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。	/	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修は、研修委員を中心に毎月1回勉強会を実施している。職員には最低年2回の研修を義務づけ、月の会議で随時、伝達講習や意見交換を行っている。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在、ひたちなか市西部地区のグループホーム懇親会が定期的なあり、施設長、管理者、職員が参加している。また茨城県地域密着介護サービス協議会県央ブロック研修会などにも参加し、それらの内容を会議で職員にも知らせ、勉強の機会としている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に不安、要望等本人への聞き取りを基にアセスメントを行う。サービス開始時にも本人とゆっくり話す時間を設け傾聴し、不安を軽減し信頼関係を築くよう努めている。また、行動、言動にも関心を持って接するよう努めている。入居者によっては体験入居を利用して頂いている。又、入居の際には、ホームでの最初の食事を家族の方と一緒に摂って頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでには家族がきたんなく話せる雰囲気でも話し、納得が得られるまで説明し、信頼関係を築けるよう努めている。又、事前に不安、要望、困っていることなど家族への聞き取りを基にアセスメントを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセスメントから「その時」まず求められている支援を見極め必要なサービス内容を確認している。又必要に応じて他のサービス事業所に問い合わせをしたり、連携を持ち柔軟な対応に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は「暮らしのパートナー」として共に支え合い、共に生きる関係作りに努めている。調理、洗濯、掃除、庭作りなど一緒にいき生活の場面で本人らしく生活できるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話などで定期的に本人の近況報告を行っている。職員は、必要に応じて家族と連絡調整を行い、入居者が安心して過ごせるよう面会、外出の協力を仰いでいる。又誕生会や行事など家族に参加して頂き、職員と一緒に入居者が楽しめる時間を共有して頂けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人への電話連絡、また年賀はがきや手紙、馴染みの人との関係が途切れないように支援している。週末のドライブや買い物の機会を利用して本人の馴染みの場所へ出掛けたりしている。	職員は利用者が入会していた老人会の催しや冠婚葬祭に家族等の協力を得ながら出席できるよう支援している。 職員は利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、他施設にいる伴侶への訪問を支援したり、週末のドライブや買い物の機会を利用して馴染みの場所へ出かけられるよう支援しているほか、利用者が友人や知人へ電話をかけたたり、年賀状や手紙を出せるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、入居者同士の会話や関わり方に関心を持ち、良好な関係作りができるよう食堂の席の配置やレクリエーションでの交流に工夫をしている。また、日々の役割分担において、お互いに支え合う関係が出来ている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、面会に訪ねて経過を確認し信頼関係が保てるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者同士の話し合いの場である「望みの会」を月に一度行い、意見や希望を聞けるようにしている。職員は日頃の会話の中から利用者ひとり一人の思いや要望、意向を把握し入居者本位のサービス提供に努めている。また、本人や家族の思いや意向を個々のノートに記し、まとまった記録として残している。	職員は利用者のこれまでの生活歴を参考にしたり、月1回利用者同士の話し合いの場を設けて意見等を汲みあげ、利用者一人ひとりの思いの把握に努めている。 職員は思いを表わせない利用者には、日々の生活の中で寄り添いながら気持ちを伝え易い関係づくりに努めている。 職員は利用者の希望にそった生活ができるよう、利用者や家族等の思いや意向を個別のファイルに記録し共有を図っているが、記録の仕方に工夫が望まれる。	日々、ケアする中で把握した利用者や家族等の思いや意向は、全職員がいつでも確認し、共有ができるよう記録の工夫が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の書類や入居者本人、家族からの話など、できるだけ多くの情報を集め、これまでの暮らしが把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を通じて生活リズムや一日の過ごし方の把握に努めている。水分量、バイタルサイン、食事摂取量などその日の体調や身体状態の観察をよく行い、現状の把握に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活や会話の中で、本人の意向、要望や課題を把握する。それについてケース検討会などで利用者や家族、関係者、職員の意見を取り入れ、その人らしく暮らせるような介護計画を作成している。	職員は利用者の課題の把握に努めるとともに、日々の生活や会話の中から把握した利用者の意向を取り入れて、その人らしく暮らせるよう介護計画を作成している。 家族等からは面会時に意向や要望を聴くとともに、診察時に医師の意見を確認し、介護計画に反映させている。 職員は日々の記録で情報を共有するとともに、支援経過を観察しながらモニタリングを行い、現状に即した介護計画となるよう定期的に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中に実践、結果、気づきなどを記録している。また、生活の中で、普段と違う言動や行動、表情など細かい部分も注意し記録に残している。それらの情報を職員間で共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望者は「体操の会」や「歌の会」にデイケア利用者とともに参加し楽しんでいる。またNPO法人「なかよし」で開催されている体操の会へ参加することもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のお店「コープ」やNPO法人で行っている「なかよし」での買い物、イベントの参加などで地域資源を活用し、豊かな暮らしを楽しむことができるよう取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内にクリニックを併設しており、24時間いつでも医師と連絡が取れるようになっている。また、他の医療機関を受診時は家族が付き添い、帰所時に状態報告を受けている。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援している。 家族等が付き添って受診する場合は、利用者の状態を伝えるとともに、受診結果を報告してもらい情報の共有を図りながら適切な医療が受けられるよう支援している。 緊急時には経営母体であるクリニックで利用者や家族等の意向を踏まえながら受診ができるよう支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、入居者に変わった様子や異常が見られれば併設デイケアの看護職員にすぐ相談し、受診、看護を受けられる体制作りをしている。状況によっては併設クリニックを緊急でも受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が安心して治療が出来るよう、また負担をできる限り減らせるよう、疾病や状態の変化、異常などを観察し、早い段階で併設内科に相談している。入退院時には併設内科クリニックを通じて診療情報を授受し、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については早い段階から本人、家族等と話し合いをしている。また併設クリニックと連携を図り、状態の変化に応じての対応、本人、家族との話し合いを随時行い、度々看取りまで行っている。	利用者や家族等に事業所の看取り介護の対応を説明し、利用者の体調に変化が生じた場合は、関係者で協議しながら重度化や終末期の支援に取り組んでいる。これまでに看取りを経験しているが、事業所の対応指針を作成し利用者や家族等から同意を得るまでには至っていない。	利用者が重度化した場合や終末期に向けて事業所の対応指針を作成するとともに、早い段階から利用者や家族等と話し合い、事業所でできること、できないことを十分に説明し、看取りに関する同意を得ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の初期対応について、研修に行ったり、勉強会を開くなどして、理解を深めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、年2回消防署員立ち会いでの総合避難訓練を実施している。毎月の避難訓練では時間を計り、感想や反省点などを検討し、記録をしている。また運営推進会議で、「地域との協力体制作りについて」話し合いを行っている。	消防署立会いのもと総合避難訓練を年2回実施するとともに、定期的な設備点検をしている。 防災マニュアルを作成し、夜間を想定した避難訓練を毎月実施している。 職員は訓練の経過時間を計り、感想や反省点を記録して会議で検討している。 運営推進会議に地元消防団員の参加を得て、緊急時の対応や地域との係わりについて話し合うなど、地域との協力体制づくりに取り組んでいる。 災害の発生に備え、食糧品や飲料水などを備蓄している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、言葉かけや対応など入居者の誇りやプライバシーに常に配慮している。記録もイニシャルで表記し、事務所に保管している。	職員は常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 利用者の記録はイニシャルで表記し、個人情報に関する書類は事務室の書棚に保管するなど、取り扱いには十分注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、常に入居者が思いや希望を表したり、自己決定できるよう、一人ひとりにゆっくりと時間をかけ働きかけを行うよう配慮している。意欲的ではなく無口な利用者には、選択肢をいくつか提供し選んでいただく等の工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が主体となって、その人らしい生活ができるよう場面作りを行うなど、柔軟な支援をしている。曜日毎にレクリエーションはある程度決まっているが入居者の希望、自己決定を尊重している。又ドライブや散歩など希望にそって支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りのアクセサリや洋服を一緒に選んで着て頂いている。個人の希望に応じて、出張理容サービスを利用することもあれば、地域の理容室、馴染みの美容室を利用することもある。	/		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の食事は栄養士の献立に沿って、調理をしている。週末は、入居者の希望を取り入れながら、入居者と職員で献立を考え、買い物に出かける。入居者の一人ひとりの能力に応じ、職員と一緒に調理、配膳、後片付けを行っている。			職員は利用者と一緒に食事をし、利用者が会話をしながら楽しく食事ができるよう支援している。平日の献立は栄養士が作成しているが、週末は利用者と職員で献立を考え食材の買い出しをしている。利用者と職員と一緒に畑でナスやさつまいも、ゴーヤなどの野菜を作り、食材に取り入れながら季節の食事を味わっている。利用者は一人ひとりの能力を活かしながら、調理やテーブル拭き、お茶いれ、後片付けなどを行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は、栄養士の献立により、バランスに配慮している。食事や水分摂取量を毎食後、記録し、一日に必要な食事、水分が摂れるよう支援している。又月一回の体重測定を実施している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入居者の力を引き出ししながら、一人ひとりの口腔状態を把握し、口腔ケアの声掛け見守りを行っている。夜間は、義歯洗浄剤を使用し、清潔に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	外出前、食後、レクリエーション活動後にはトイレの声かけや誘導を行うよう努めている。また排便チェックを行い排泄の間隔、パターンを把握し、排泄の失敗軽減に努めている。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、夜間を含め一日を通して時間を見計らいながら利用者の様子を見て声かけ誘導し、トイレで排泄ができるよう支援しながら、おむつを使用しないで済むよう取り組んでいる。排泄に失敗した場合にはさりげなく対応し、利用者の誇りを傷つけない配慮をしながら、排泄の自立に向けた支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事中心の予防を心掛け、野菜や繊維質の食材、乳製品を多く摂るよう心掛けている。適度な水分が摂れるよう嗜好に合わせて提供するなどの工夫をしている。毎日の散歩や体操などを行い自然排便に心掛け、排便の有無のチェックをし便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の体調や希望時間に合わせてゆっくりと入浴を行えるように支援している。また、花や果物を浮かべて季節や香りを楽しむ工夫をしている。	職員は利用者一人ひとりの体調や希望にそってゆっくりと入浴ができるよう支援するほか、利用者が入浴を楽しめるよう入浴剤を活用したり、薔薇の花や柚子などで季節が感じられるよう工夫をしている。入浴を拒む利用者には体調や状態に合わせてタイミングを見計らいながら言葉かけの工夫をし、無理のないよう促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を充実させ積極的に参加してもらうことで生活のリズムを整えられるよう努めている。それぞれの体調や希望に応じて飲み物を用意したり、エアコンを利用してゆっくり休息がとれるような支援をしている。眠れない時には、ゆっくり話を聞く時間を持ち、温かい飲み物を勧め安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の内服薬の理解をし、医師の指示のもとに支援をする。特に、内服薬の変更、追加があった際には、心身状態や症状の変化などの観察、確認に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる活動の把握に努め、日々の暮らしの中で、食器洗い拭きや洗濯干したたみ、食事の味見、盛り付け、掃除まで一緒に行い感謝の言葉を必ず伝えている。さらにドライブ、買い物などの機会を多く作り気分の転換が図れるよう工夫している。又、年一回の文化祭では、入居者、職員の作品を展示し、趣味活動への意欲が高まるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の話し合いにより、行事を決めて利用者個人の希望を取り入れていくよう支援する。一緒に買い物に出かけたり、普段、出掛けられないような場所には、家族と連絡調整を行い、外出の援助を行っている。	天気の良い日は体調に合わせて周辺を散歩するとともに、週末にはドライブに出かけている。利用者の希望にそって買い物や食事、理・美容室などに出かけられるよう支援している。利用者が外出を楽しめるよう、運営推進会議やチラシなどから情報を得て地域の展示会や青空市、クリスマスのイルミネーションを見に出かけている。普段行けないような場所へも出かけられるよう、家族等に利用者の希望を伝えたり連絡調整をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望や能力に応じて金銭管理を支援している。ホームでのヤクルト販売や、コープでの買い物時に本人が支払いできるように支援している。また、自己管理している方もいるが、それ以外の方はホームでお預かりし、買い物の時に財布をお渡しする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望時に、電話を掛けられるよう支援している。番号を職員が押して、本人が直接話せるよう努めている。手紙も、本人と一緒に出しに行くよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には行事の写真、新聞、入居者の作品（習字、俳句、クラフト作品）を展示し、明るく楽しい空間になるよう心掛けている。玄関やホールには、季節のお花を飾ったり畑で収穫した野菜などをバスケットに入れ季節感や清潔感を感じられるよう配慮している。	居間や食堂に床暖房を設置するとともに、職員は利用者が居心地よく過ごせるよう音や光が不快な刺激とならないように配慮している。 廊下には習字や俳句、クラフトなどの利用者の作品や行事の写真、花を飾り季節を感じながら穏やかに過ごせるよう工夫している。 和室に掘ごたつや大きな画面のテレビを用意し、利用者はDVDなどを鑑賞し楽しく過ごしている。 窓際にゆったりとしたソファを設置するとともにベランダにテーブルと椅子を用意するほか、利用者手作りの寄せ植えを飾るなど、職員は寛いで過ごせる空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外の場所でも、日当たりのよい窓際にソファを設置し、一人でも寛げる空間を設けている。和室などに腰掛けて、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるよう居場所作りに工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れた家具を置いたり、家族との写真や絵を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室の入り口には、利用者と家族等が工夫して思い思いの暖簾を掛けている。 家族等の写真や絵、習字などの利用者の作品、使い慣れた家具や飾り物、位牌などを置いて利用者が生活の質を保ちながら居心地よく落ち着いて暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には、ホールやトイレに手すりを設置し、「歩く」「立てる」など、出来ることを安全に継続して自立した生活が送れるよう工夫している。また、居室のドアに一人ひとりの好みの暖簾を掛けて、自分の居室がわかるよう工夫している。トイレのドアは白色にし、居室と区別している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 きんもくせい

作成日 平成23年6月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	9	個々の思いや意向の把握をわかりやすく記録として残していない。	個々の意向を把握してわかりやすく共有できる記録にする。	日々の介護記録に、意向・要望は赤のマーカ―また医療に関しては、青のマーカ―を使用する。	実施済
2	12	重度化した場合や終末期に向けて事業者の対応指針、及び看取りに関する同意書の作成をする。	看取りに関する同意書の作成をする。	看取りに関して、医師と話し合いをし同意書を作成する。	1ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。